

令和8年度 梶崎市立柳田小学校学力向上プラン

〈児童の実態〉

・前年度12月に実施した標準学力調査では、国語科で4学年、算数科で5学年が全国平均を上回っているが、知識・技能的な問題に比べると思考・判断・表現的な問題の正答率は10点以上低くなっている。

〈これまでの校内研究の成果と課題〉

・前年度は「ねりあげる」過程を重視し、ガイド学習を取り入れながら充実した学習指導を目指した。児童同士で意見を補足しながら話し合う習慣ができた一方で、語彙力や学力の差から話し合い活動の深まりに差があった。

学校教育目標

豊かな心と確かな学力、たくましさを身に付けた児童の育成

目指す児童像

やさしい子 かしい子 たくましい子

【研究主題】

主体的に学び、確かな学力を身に付けた児童の育成

【研究仮説】「ねりあげる」過程において、考えを共有し、学び合う授業づくりを工夫することで児童は確かな力を身に付けることができるであろう。

授業改善

- ・「第五版」の理念のもと、「学びの習慣化メソッド」を活用し、児童が主体的に学ぶ授業づくりをする。
- ・ねりあげる過程において、子どもが自分の考えを深め、広げることができるよう、教師の発問や、ねりあげの視点、話型を工夫することで伝え合う活動を重視した授業を研究し、授業実践に生かす。
- ・授業のあらゆる場で、子どもが試行錯誤できる学習を意図的、効果的に設定する。
- ・ICT機器(クロムブック)の効果的な活用を行い、児童の主体的な学びを目指す。
- ・学習のゴールの姿を共有し、目的意識をもたせ、学習意欲を高める。
- ・問題解決の過程や結果について、自分なりに工夫して考えたり伝え合ったりする力を高めていく。
- ・授業分析シートや授業チェックシートに基づいた算数科の研究授業及び授業研究会を行い、授業力の向上に努める。

授業改善以外の取組

- ・アップル20(基礎基本・発展的学習)で、ドリルパークを活用し、国語・算数に関する基礎基本の習熟を図る。
- ・タイピングの練習時間を設定し、スキルの向上を目指す。
- ・年間を通して、詩集の暗唱などに取り組み、語彙力の向上につなげる。高学年は、場面に合わせた読み方ができるように支援をしていく。
- ・各学年に応じた音読や暗唱などを継続して行い、語彙力や読む力を高める。

家庭との連携

- ・学校だより、学級通信、保健だより等により学校での様子や共通理解しておきたいことの情報共有を行う。
- ・家庭学習の習慣化のために「家庭学習の手引き」を配付し定着を図る。
- ・生活習慣を整えるために、メディアコントロールや朝からパワーシートなどの取組を行う。
- ・親子読書や10分間読書に取り組み、家庭での親子読書活動を推進する。

検証軸

- ・授業分析シートや授業チェックシートによるPDCA【常時】
- ・日々の授業での児童の振り返り【常時】
- ・標準学力調査の結果の分析【4月・2月】